

現地説明会・発掘体験を行いました。

山ノ口原遺跡体験発掘・現地説明会(小林市)
 平成27年10月25日(日) 13:30~15:00 参加者:77名
 調査担当者が、現地にて発掘調査の結果から考えられる当時の生活について説明しました。
 また、発掘体験も行い地域の方々に発掘調査を知ってもらう良い機会となりました。



発掘体験の様子

高樋遺跡現地説明会(都城市)
 平成27年11月8日(日) 13:30~15:00 参加者:50名
 調査担当者が古墳時代の住居跡など、実際の遺構について説明しました。出土した土器などの展示も行い、訪れた方々からは地域の歴史を感じることが出来たと好評でした。



遺構の説明を行う

出前講座・出前展示に申し込みませんか？

宮崎県埋蔵文化財センターでは、職員が土器や石器などの遺物を持参し、学校や団体の皆様に、地域・周辺の歴史についてお話しする「**出前講座**」を行っています。また、本物の土器や石器、解説・写真パネルなどの「**出前展示**」のご希望にもお応えします。いずれも、費用はかかりません。日程調整や準備に時間が必要なため、普及資料課までご相談ください。
 本物の土器や石器を学校向けに貸し出す「**学習キット**」もご利用ください。

連絡先：宮崎県埋蔵文化財センター分館 普及資料課 Tel. 0985-21-1600



北方延岡道路開通イベントでの出前展示

紙屋中学校での出前講座

平成28年度普及事業のお知らせ

※事業の日程、内容についてはやむを得ず変更することがあります。ホームページ等で事前にご確認ください。

埋蔵文化財講座 第3日曜日13:30より 参加無料・申込不要
 「ここまでわかったひむかの歴史」近年報告書の刊行された遺跡を中心に担当者が講演します。
 場所：分館(神宮)

- 5月15日(日) シラスの下に旧石器人の痕跡あり!! 山ノ口原遺跡(小林市)
- 6月19日(日) 災害と埋蔵文化財 -東日本大震災復旧・復興発掘調査- 台の下遺跡(気仙沼市)・山王遺跡(多賀城市)
- 7月17日(日) 霧島山麓、生駒高原に暮らした縄文人 生駒遺跡(小林市)
- 12月18日(日) 山の恵みと縄文人 前畑・坂ノ上遺跡(日南市)
- 1月15日(日) 縄文時代後晩期の土器群 中床丸遺跡(都城市)
- 2月19日(日) 中世の城館跡 笹ヶ崎遺跡(都城市)

遺跡発掘速報展2016 観覧無料
 近年、報告書を刊行した中床丸遺跡、笹ヶ崎遺跡、大年遺跡、大窪第1遺跡などの資料を中心に展示します。
 場所：県立図書館特別展示室
 期間：8月19日(金)~9月11日(日)



遺跡発掘速報会 参加無料・申込不要
 前年度までに発掘調査を実施した遺跡の速報講演会です。
 場所：県立図書館視聴覚室
 日時：8月21日(日) 13:30~16:30
 報告遺跡：高樋遺跡、保木島遺跡、平田遺跡、塚原遺跡、潮遺跡など

施設公開「埋文センターで考古学体験」 参加無料・申込不要
 埋文センターを知っていただくイベントです。さまざまな体験やプレゼントを準備しています。
 場所：分館(神宮) 日時：11月3日(木・祝) 10:00~16:00

移動展示会「ふるさと発掘!埋文キャラバン」
 埋文センター所蔵の遺物から逸品を選んで各地で公開する企画です。講座や解説もあわせて実施します。

国富会場 観覧無料
 場所：国富町立図書館
 期間：9月17日(土)~10月23日(日)
 関連講座：10月15日(土)・16日(日)

西米良会場 観覧無料
 場所：西米良村保健センター
 期間：11月5日(土)~11月20日(日)
 関連講座：11月12日(土)・13日(日)

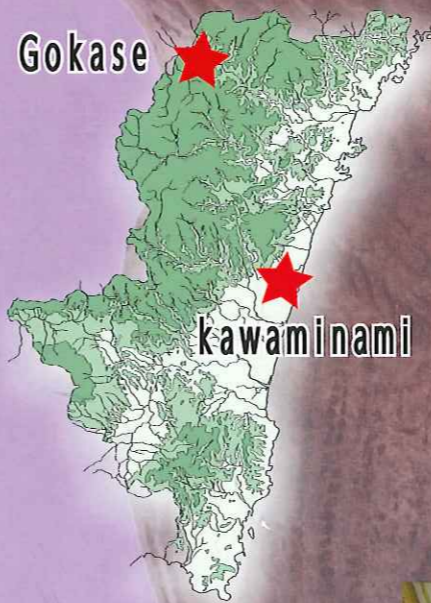
分館テーマ展示 観覧無料
 神宮の分館では常設展示の一部を季節ごとに入れ替え、平成28年度は3回テーマ展示をおこないます。
 春の展示「置県130年記念報告書の遺跡」
 秋の展示「都城の遺跡①」
 冬の展示「都城の遺跡②」



宮崎県埋蔵文化財センター

MIYAZAKI PREFECTURE ARCHEOLOGICAL CENTER

移動展示会
 ふるさと発掘!
 埋文キャラバン



宮崎県埋蔵文化財センター通信

18号



県内2会場で開催しました。

- ① 五ヶ瀬会場 五ヶ瀬町自然の恵み資料館
 平成27年 9月18日(金)~10月12日(月・祝)
 キャラバン講座 9月27日(日)
- ② 川南会場 川南町立図書館
 平成27年11月18日(水)~12月6日(日)
 キャラバン講座 11月23日(月・祝)

五ヶ瀬会場



キャラバン講座の展示解説



竪穴住居ベーパークラフトの製作体験

川南会場



宮崎県埋蔵文化財センターは、宮崎県教育委員会に所属し、県内各地における発掘調査や文化財の保護、教育普及活動に取り組む機関です。1982年の設立以来、約30年間にわたって県内各地で発掘調査を行い、出土した膨大な考古資料の収蔵管理を行っています。
 今回の移動展示会は、埋蔵文化財センター所蔵資料の中から選りすぐりの逸品や、地域に関連する資料で構成し、広く県民の皆さんに郷土の歴史に触れていただくことを目的に県内2か所で開催しました。平成28年度は国富町と西米良村にキャラバンします。ご期待ください。



平成27年度の発掘調査

宮崎県埋蔵文化財センターでは、平成27年度に県内8か所で発掘調査を実施しました。今年も、いにしえの人々の使った道具(遺物)や生活の跡(遺構)など、郷土宮崎の歴史を語る貴重な資料がたくさん見つかりました。今回は、そのうち7調査の結果を速報でご紹介します。出土遺物や記録した遺構は今後、埋文センターで土器の接合や製図などの整理作業をすすめ、報告書にまとめていきます。



① 高樋遺跡

都城市梅北町
調査期間：2015年4月21日～2016年2月5日

高樋遺跡は、都城盆地の南側に位置しており、梅北城や梅北川にもほど近いシラス台地の先端部にあります。今回の調査では、20軒を超える中世の掘立柱建物跡や道路状遺構とともに、中国製の陶磁器や銅銭などが見つかりました。また、古墳時代の竪穴住居跡が10軒確認され、その住居跡からは刀子などの鉄製品や土師器の甕・高坏といった器が見つかりました。



古墳時代の竪穴住居跡

② 保木島遺跡

都城市梅北町
調査期間：2015年5月20日～2015年10月7日

保木島遺跡は、都城市の南東部に位置し、東には金御岳を中心とした鱈塚山系に連なる山地が広がっています。遺跡からは縄文時代を中心とした遺物や遺構、なかでも縄文時代晩期の、動物を捕まえるために掘った陥し穴状遺構が確認されました。その深さは70cmほどで、底には穴に落ちた動物が身動きできなくなるため杭を突き立てた痕跡と思われる穴も残っていました。



陥し穴状遺構

③ 山ノ口原遺跡

小林市東方
調査期間：2015年6月22日～2015年10月28日

山ノ口原遺跡は、小林市東方の標高約300mの山間に位置し、発掘調査で旧石器～縄文時代の遺物や遺構が確認されました。特に今回確認された旧石器時代の礫群や黒曜石の石器といった遺物は、小林市では火山灰層が厚いため今までの調査ではあまり見つかっておらず、小林市域の旧石器文化を考える上で貴重な資料となりました。



山ノ口原遺跡遠景(北から遠くに霧島連峰を望む)

④ 平田遺跡

都城市南横市町
調査期間：2015年5月20日～2016年3月18日

平田遺跡は横市川右岸に発達した、標高約141m～148mの横市段丘上に位置しています。平成15・16年度の発掘調査では、弥生時代の集落跡や中世の畠跡などが確認されています。

今年度の調査では、弥生時代の周溝状遺構、1471年に降った文明ボラという火山灰で覆われた中世の畠跡・道路状遺構や溝状遺構、数珠と考えられる玉類が出土した近世の墓などが見つかりました。遺物は弥生土器や土師皿、寛永通宝などが確認されています。



中世の道路状遺構

⑤ 塚原遺跡

東諸県郡国富町大字岩知野
調査期間：2015年10月26日～2016年3月18日

塚原遺跡(G地区)は、東諸県郡国富町の東部、東九州自動車道と県道26号線の交差する平野部の丘陵下に広がる低湿地に位置します。

今回の調査では、弥生～近世と幅広い時代の遺物や遺構が見つかります。特に、中世から近現代までの地層で水路や畦といった水田関連の遺構が見つかったことから、中世から現代という約800年もの間、この低湿地一帯で米作りが行われていた可能性があります。



溝の近くから出土した木製品

⑥ 潮遺跡

西都市大字鹿野田
調査期間：2015年12月14日～2016年1月29日

潮遺跡は、一般県道札の元佐土原線の道路改良工事にもない調査が行われました。調査の結果、古代(奈良・平安時代)の遺構・遺物が確認されました。なかでも、焼成土坑(土器を焼いたと考えられる跡)が2基見つかり、そのうち1基から、割れてはいますが原型をほとんど留めたままの土師器や木炭が確認されました。今回の発見は、宮崎県内における古代の土器生産を考える上で、貴重な資料になると考えられます。



焼成土坑

⑦ 笹ヶ崎遺跡(3次)

都城市梅北町
調査期間：2015年7月1日～2015年8月28日

笹ヶ崎遺跡は、都城市南部の梅北町にあります。今回の調査は昨年度に行った1次・2次調査からの継続です。調査の結果、縄文時代・古墳時代・古代・中世の遺構・遺物が確認されました。遺跡からは、丸鞆が出土しました。丸鞆は、古代装束の石帯(石板で飾られていた革帯)に用いられていた石製の装飾です。当時、石帯は、官人など特定身分の人しか使用しておらず、遺跡が当時、役所などの公的機関やそれに関連する場所であった可能性を示す結果となりました。



出土した丸鞆(裏側)